

そろばん継手 施工要領書

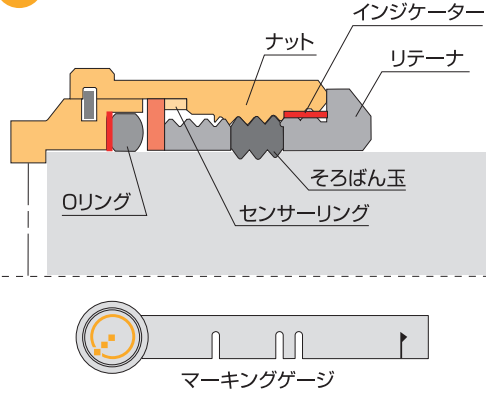
一般配管用ステンレス鋼管

13Su~60Su

！ 施工前に必ず お読み下さい。

- ！ 注意** 取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、中程度の傷害や軽傷を受ける可能性、及び物的損害の発生が想定される場合。
- 🚫 禁止** 取扱いを誤った場合に、所定の機能が発揮されず、トラブルの発生が想定される場合。

1 構造と部品名称



2 管の切断

バンドソー、メタルソー、ローラーカッターなどで管に直角に切断して下さい。

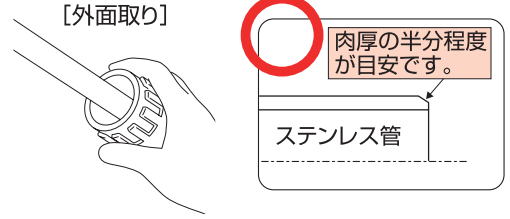


管の端部100mm範囲は傷、変形、異物の付着が無いことを確認して下さい。

🚫 高速砥石切断、溶断は禁止です。

3 管の面取り

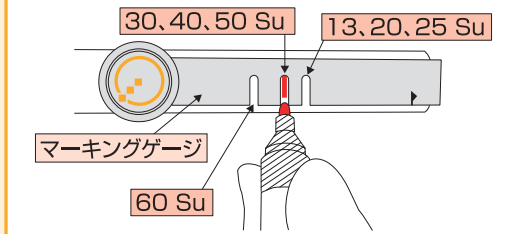
- ①外面取り/リーマやヤスリ等で0.5C程度の面取りを行って下さい。
- ②内面取り/内面のカエリを除去して下さい。



！ 注意 外面取りが無い場合、パッキンを損傷したり、差込不足を起し、漏水発生の恐れがあります。

4 マーキング (標線記入) **重要**

マーキングゲージを使用し、管に差し込み標線を必ず記入して下さい。



サイズ (Su)	13, 20, 25	30, 40, 50	60
標線位置	管端から 43mm	管端から 46mm	管端から 70mm

5 継手の確認事項

リテーナ：
正しくセットされていること。**注1)**
ソロバン玉が脱落していないこと。**注2)**
(13Su~30Suは4個、40Su~60Suは6個)

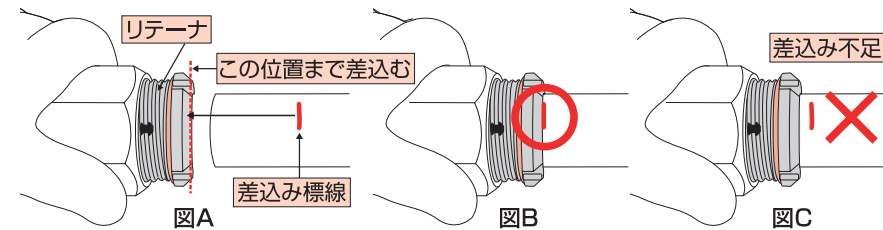
継手内部：
Oリングに傷がないこと。
異物などが付着していないこと。

！ 注意 センサーリングは施工不具合検知の部品です。
手をふれないで下さい。

注1)：リテーナが斜めになっている場合は、リテーナを外して、正しくねじ込み直して下さい。
注2)：脱落の場合はリテーナを新品に交換して下さい。

6 管の差込み

- ①継手のリテーナを外さずに管は真っ直ぐに差し込みして下さい。
- ②標線が隠れるまで、完全に差し込みして下さい。(図B参照)



🚫 リテーナを外しての差し込みは禁止です。
センサーリングを押し込み、機能障害の恐れがあります。

！ 注意 ●斜め差し込みはOリングを損傷し、漏れの恐れがあります。
●管が継手に差し込めない場合は、リテーナを少し、ねじ戻して下さい。

7 手締め、ナット締め込み

- ①ナットを掴み、リテーナを矢印の方向に手締めして下さい。(図D参照)
- ②続けて管とナットにレンチを掛けて、ナットを矢印の方向に紫色のインジケーターが見えなくなるまで締め込みして下さい。(図E参照)

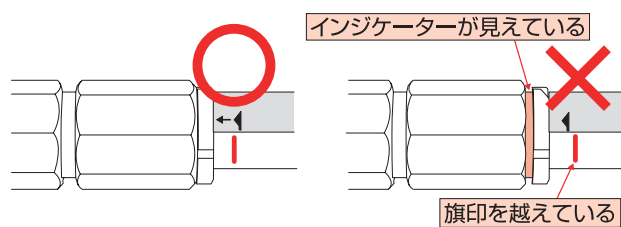
- 🚫** ●手締め状態での放置はナット締め忘れにつながるため、厳禁です。
- 🚫** ●インジケーターが見えなくなったらナット1回転以内で止めて下さい。これ以上は締め込みしないで下さい。



🚫 リテーナにパイプレンチを掛けることは禁止です。

8 完了確認事項

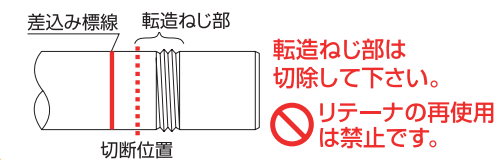
- ①紫色のインジケーターが見えなくなっていること。
- ②標線の位置がマーキングゲージの旗印以内であること。



！ 旗印を越えている場合は、再施工して下さい。
インジケーターが見えている場合はナットを増し締めして下さい。

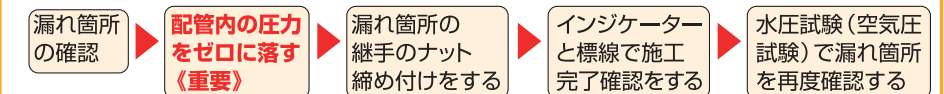
9 再施工の手順

- ①ナットを緩め、管を外して下さい。
- ②継手内部の異物は除去して下さい。
- ③リテーナを新品と交換して下さい。
- ④継手に異常がある場合は新品に交換して下さい。
- ⑤管の転造ねじ部を切断して下さい。(下図参照)
- ⑥切断以降、施工要領書に従い、施工して下さい。



漏れを発見した場合の対処法

①ナット締め忘れの場合 (そろばん継手はナット締め忘れ箇所が漏れる構造になっています)



②他の場合、再施工して下さい。
ナットを増し締めしても漏れを止めることは出来ません。

！ 注意 なお、再施工時は、ナット締め忘れを検知する機能はありません。ご注意ください。

初めてご使用の方には
施工講習会を実施していますので、
弊社までご相談下さい。

施工要領の確認（禁止事項）

氏 名

年

月

日

	 禁止事項	理 由	要領書 番号	チェック ✓	MEMO
I	高速砥石切断機・溶断で管を切断すること	管端面の扁平、傷付きにて Oリングを損傷させる恐れがある	②		
II	SU管の外面取りが無いこと	Oリングを傷付けて漏れの 起きる恐れがある	③		
III	差込標線が無いままSU管を 差込むこと	差込不足の異常が発見出来ず、 漏れの起きる恐れがある	④		
IV	リテーナのそろばん玉の 脱落品を使用すること	継手性能不足により脱管の 恐れがある	⑤		
V	紫色のインジケータが見えて いる状態で放置すること	継手性能不足により脱管の恐れ がある [万一の場合に備え検知機能を装備しています]	⑥		
VI	インジケータが見えなくなって から1回転以上過剰に締込むこと	継手性能不足により脱管の 恐れがある	⑦		
VII	標線の位置が旗印を越えている 状態で放置すること	標準施工されていないので、 漏れや、脱管の恐れがある	⑧		
VIII	リテーナを再使用すること	継手性能不足により脱管・漏れ が起きる恐れがある。	⑨		